

シリーズ掲載

言語活動の充実に向けたはじめの一歩

「学びかけのある魅力的な学習課題づくり」Vol. 1

～事象提示の工夫により既存のイメージを揺さぶり、動かす～

小学校4年「消防署ではたらく人の仕事」を例に
この単元の学習のねらいは、



消防署が中心に関係機関との連携を図りながら、火災などの災害から人々の生活、安全を守る工夫や努力をしていること。

をとらえさせるものです。

子どもたちには、「消防署の仕事＝火事を消す」というイメージがあると思われます。そこで、このイメージを揺さぶるために、以下のような資料を提示します。

〈資料1〉会津若松地方広域市町村の火災のけん数

平成23年 ■ 53けん

平成24年 ■ 55けん

(出典：会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部)

ふうん、そうなんだ



まず、各年度の火災件数を読み取らせます。子どもたちは、年度によってそんなに火災件数が変わらないことに気付くはずです。この時点では、子どもたちにとってそんなに驚きはないでしょう。

そこで、次のように板書をして話をします。

1年間の火災のけん数・・・53けん(平成23年)

54けん(平成24年)

1年間の日数・・・・・・・365日

えつ、火事が
ない日が多いな！

火事が起きて
ない日は何をし
ているのかな？



火事がおきていな日・・・300日より多い

子どもたちは、消防署の仕事は、「火事を消すこと」であると知ってはいるけれど、「火事がない日は何をしているのだろう」という問題意識を持ち、意外と消防署の仕事を知らないことに気付くでしょう。

そこから学習課題

『消防署では、火事がない日はどのような仕事をしているのか調べよう』

をつくることができます。



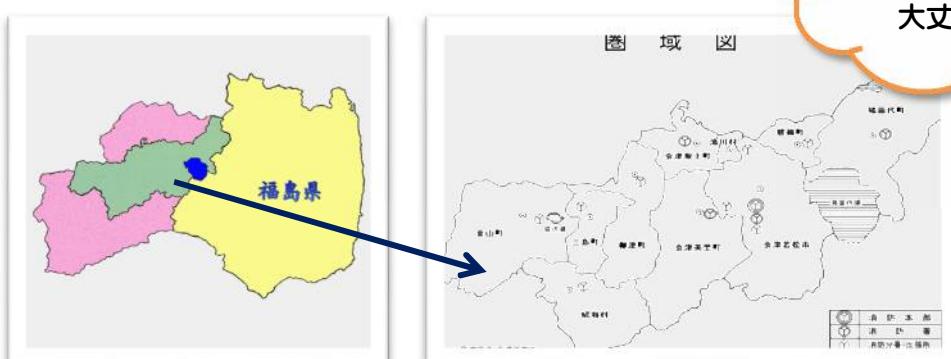
しかし、この学習課題だけでは、単元のねらいに迫ることはできません。そこで、さらに以下の資料と地図を提示します。（出典：会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部）

〈資料2〉 消防署で働く人と場所

消防署ではたらいている人の数	288人
----------------	------

はたらく場所	人口
会津若松市、猪苗代町、磐梯町、湯川村、会津坂下町、会津美里町、柳津町、三島町、昭和村、金山町	193,606人

〈地図〉 働く場所



こんなに住んでいる人がいるのに、消防署で働く人はこれだけなの…

こんなにも広い場所なんだ…

どこで火事が起きても大丈夫なのかな？



子どもたちは、ここで「こんなに住んでいる人がいるのに、消防署で働く人はこれだけなの」などと思うでしょう。さらに働く場所の範囲を示した地図を見せて、「こんなにも広い場所なのか」「遠くで火事があったらどうするのだろう？」などという気付きや問題意識を持つでしょう。

そこから学習課題



『広い場所を少ない人数でどのように火事を消しているのか調べよう』

をつくることができます。

以上二つの学習問題を設定することで、「火事の現場に早く行くために、出張所が7つもある」「火事に備えて、火災を出さないように広報活動をしている」「普段から厳しい訓練をしている」など、人々の努力や関係機関と協力して災害を防ぐなどの努力や工夫をとらえることができると言えます。つまり、この学習課題を追究することを通して、子どもたちは、消防署の仕事は、「火事を消す」ということだけでなく「火事を出さない」ということにも気付いていくでしょう。

★まとめ★

子どもにとって身近な事象でありながら、資料の数字にこだわり、その扱い方を工夫するとともに、複数の資料を効果的に提示することで新たな問題が生じ、最終的に「子どもたちが知っているようで知らない」学習課題をつくることにつながります。

次回は、中学校歴史の古代（奈良時代）における学習課題づくりについて紹介します。
さて、小学校歴史の学習課題づくりとの大きな違いは何でしょうか？

